

更新期ニュータウンの コミュニティ再生

— 豊中市立東丘小学校 —

学校・施設概要

所在地：大阪府豊中市新千里東町

創立：昭和41年

児童数：163名

学級数：6（平成14年5月現在）

地域・コミュニティの特性

- 高齢化が進行し、学校は大量の余裕教室を抱えている。
- 住宅はすべて中高層の集合住宅で、老朽化にともなう建替えが進行している。
- 平成12年度に、国の「歩いて暮らせる街づくり」構想のモデル地区に選定された。



ひがしまち街角広場

事例の特徴

- 地域の人々がふれあい、活動する拠点づくりを行った。
- 高齢者が地域で活動し、子どもたちを見守っている。

気軽に立ち寄れる 地域活動拠点づくり

学校の近くに、地域のボランティアやサークル等が集まり、交流・連携しながら活動できる「ひがしまち街角広場」を開設した。喫茶コーナーの運営等、地域住民が気軽に立ち寄り、子どもたちも、この広場や周辺を、放課後に遊びや学習の場として利用し、地域住民との交流を深めている。



ひがしまち街角広場に設けられた、様々な情報が集まる掲示板



植え込みの手入れを住民が行い、スーパー防犯灯の効果を高めている

高齢者などの地域住民が集い、 見守る学校・通学路

学校の余裕教室を地域住民が集える「コミュニティルーム」とした。住民参加による「まちづくり構想」にもとづいて、防犯カメラや通報装置等を内蔵する「スーパー防犯灯」が通学路に設置された。高齢者を中心とした地域住民は、植え込みを管理するなど、「ひがしまち街角広場」を中心に積極的にまちで活動し、子どもたちを見守っている。

地域に開かれた安全・安心な学校づくりの創意・工夫

起す

学校に住民が集まって地域の課題を話し合い、将来像を描いた

- 「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区指定をきっかけとして、町会や福祉、社会教育、防犯などに携わる地域自治組織や住民が学校の「コミュニティルーム」に集まった。ワークショップ等を通じて地域の課題について検討を進め、「まちづくり構想」を作成した。

地域住民や地域の活動が集まる場所をつくって連携を図っている

- 地域組織が協働して、住民や地域に関心を持つ学生・ボランティア・サークル等が気軽に集まれる「ひがしまち街角広場」を、空き店舗を利用して設けた。これによって、それぞれが持つ様々な情報を交換しながら、新しい協力関係が築かれるようになった。
- 各組織は、それぞれがもつ地域に関する情報や「ひがしまち街角広場」に集まった情報を集約し、地域コミュニティ誌「新千里東町『ひがしまち』」を制作・発行している。これによって、相互の連携を深めながら、地域活動に対する住民の理解や参加を促している。

一つ一つの活動を大切にしながら地域の連携を深めている

- 様々なボランティアやサークルの活動を「ひがしまち街角広場」で広報できるようにし、地域住民の生活支援やサークル間の連携に結び付けている。
- 学校と公民分館（公民館の小中学校区ごとの分館）は、運動会を合同開催するなど、児童と住民との世代間交流や住民相互の交流を図っている。

地域と行政のパートナーシップを築き、自立したまちづくりを進めた

- 「ひがしまち街角広場」の開設にあたって、当初半年間は市の補助金を得たが、喫茶コーナーの設置などにより運営を軌道に乗せ、自主運営に結び付けた。
- 市が管理している道路の植栽の維持管理や清掃を、市の制度「アドプトシステム」を活用し、高齢者を中心とした住民が行っている。

※アドプトシステム アドプトとは養子にするという意味で、自治体等が建設した道路や公園、河川などを、住民や企業が維持管理するというアメリカ生まれの地域活動のシステム。

広げる・つなげる

続ける

安全・安心のための工夫

- 「まちづくり構想」に通学路など生活道路を位置付け、スーパー防犯灯の整備を実現した。
- スーパー防犯灯の効果を高めるために、住民が植栽の管理を行うなど、住民と行政の連携により安全・安心の向上を図っている。
- 通学路沿いにある空き店舗を地域住民の交流拠点として活用し、夜間の明るさを確保するとともに、住民の目が日常的に通学路に向けられるようにしている。